

平成27年度病虫害発生予察予報第6号（9月）

平成27年9月3日

高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
普通期稲	いもち病（穂いもち） ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ	少（東、中央、中西）、平年並（西） 平年並（東、中央）、やや少（中西）、 <u>やや多（西）</u> <u>多（東）</u> 、少（中央、中西、西） <u>多（東）、やや多（西）</u> 、平年並（中西）、少（中央） 少（県下全域）
かんきつ類 （温州みかん）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	少（中央） <u>多（中央）</u> 少（中央） 平年並（中央） <u>多（中央）</u>
かんきつ類 （中晩柑類）	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類	やや少（東）、 <u>多（中央、中西、西）</u> <u>多（中西）、やや多（東、中央、西）</u> <u>多（県下全域）</u> <u>多（中西）</u> 、平年並（中央）、やや少（東、西） <u>多（県下全域）</u>

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 8 月 27 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 8 月 29 日から 9 月 28 日

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は平年並または低い確率ともに 40％です。降水量は、平年並または多い確率ともに 40％です。日照時間は平年並または少ない確率ともに 40％です。

週別の気温は、1 週目は低い確率 60％です。2 週目は、平年並または低い確率ともに 40％です。3～4 週目は、平年並または高い確率ともに 40％です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	40	40	20
		降水量	20	40	40
		日照時間	40	40	20

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	60	30	10
2 週目		40	40	20
3～4 週目		20	40	40

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：8 月 29 日（土）～9 月 28 日（月）

1 週目：8 月 29 日（土）～9 月 4 日（金）

2 週目：9 月 5 日（土）～9 月 11 日（金）

3～4 週目：9 月 12 日（土）～9 月 25 日（金）

II 病虫害発生予想

1 普通稲の病虫害

1) いもち病（穂いもち）

予 想 発生量：少（東部、中央部、中西部）、平年並（西部）

根 拠

(1) 8 月の調査では県東部、中央部、中西部では少発生、西部では平年並の発生であった。梅雨明け後、高温多照が続いたため病勢の進展は停止し、穂いもちはほとんど見られていない。

対 策

(1) 本県での発生は確認されていないが、他県では QoI 剤の耐性菌が確認されている。QoI 剤耐性菌発生を防止するため、これらの剤の使用回数は作期を通じて 1 回以内とする。

2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：平年並（東、中央部）、やや少（中西部）、やや多（西部）

根 拠

(1) 8月の調査では、県西部で発生面積がやや多かったが、密度は平年並であった。
他の地域では目立った発生は見られなかった。

(2) 9月の気温はやや低め～平年並と予想されているため、8月と同様の傾向が続く
と考えられる。

対 策

(1) 萎縮病の発生は確認されていないため低密度時の防除は必要ないが、出穂期に高
密度になると稔実不良となるおそれがあるので注意する。

3) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多（東部）少（中央部、中西部、西部）

根 拠

(1) 8月の調査では県東部で多めの発生であり、密度もやや高めであったが、他の地
域では少発生であった。

(2) 9月の気温はやや低め～平年並と予想されているため、8月と同様の傾向が続く
と考えられる。

対 策

(1) 本虫による直接被害は少ないと思われるが、縞葉枯病を媒介するので発生に注意
する。

4) セジロウンカ

予 想 発生量：多（東部）、やや多（西部）、平年並（中西部）、少：（中央部）

根 拠

(1) 8月の調査では、県東部、西部で多め、中西部で平年並、中央部では少発生であ
った。

(2) 9月の気温はやや低め～平年並予想されているため、8月と同様の傾向が続くと
と考えられる。

対 策

(1) セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害
虫であるため、ほ場内での発生に注意し、多飛来があった場合には、産卵痕や吸
汁により生育被害が出るので防除を行う。

5) トビイロウンカ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 8月の調査では、県下全域で発生は確認されていない。また、予察灯への誘殺も
見られていない。

(2) 今作において、九州、四国地方におけるトビイロウンカの大飛来は確認されてい
ない。

対 策

(1) トビイロウンカは、ほ場内でも局所的に発生するため初期発生を確認するのが困
難である。

現在、出穂期防除に主に使用されているジノテフラン剤、エトフェンプロック
ス剤の抵抗性は確認されていないが、本虫は株元に集中的に発生するため、防除
は薬剤が株元に届くよう注意する。

2 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では少発生であり、巡回ほ場での発生は確認されていない。
- (2) 9月の降水量は平年並～やや多めと予想されているため、発病ほ場では病勢が進展すると考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では多発生であったため、多発傾向が続くと考えられる。
- (2) 9月の降水量は平年並～やや多めと予想されているため、既発ほ場では病勢が進展すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：少（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では少発生であり、巡回ほ場での発生は確認されていない。
- (2) 9月の降水量は平年並～やや多めと予想されているため、発病ほ場では病勢が進展すると考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：平年並（中央部）

根 拠

- (1) 8月の調査では発生はやや少なめであり、密度の高いほ場も見られなかった。
- (2) 本虫は高温期には密度が低下するが、気温の低下とともに発生が増加する傾向にある。9月の気温は平年並～やや低めと予想されているため、発生面積、密度とも増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメムシ類

予 想 発生量：多（中央部）（トラップ調査データ）

根 拠

- (1) 8月の調査では、ほ場での発生は殆ど見られないが、フェロモントラップにおける8月の誘殺数（8月1～5半旬）は、県東部で平年の1.5倍、中央部で3.3倍、中西部で6.9倍、西部で3.0倍と先月同様、多発生が続いている。

対 策

- (1) 果樹カメムシ類はスギ、ヒノキ等の実を餌としているので、密度が高くても山林に餌が十分にあれば果樹園での被害はほとんど無いと考えられるが、山林で餌不足になると樹園地に飛来し、加害する可能性が高い。また、台風後には樹園地に飛来することもあるので注意する。

3 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：やや少（東部）、多（中央部、中西部、西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では県東部では発生面積も少なく、発病程度も低かったが、県中央部、中西部、西部では多めの発生であり、西部では発病程度も高かった。
(2) 9月の降水量は平年並～やや多めと予想されているため、病勢が進展すると考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により、春葉への感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（東部、中央部、西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では県中西部で発生面積が多かったが、発病程度の高いほ場は見られなかった。その他の地域では発生面積は平年並、県中央部では発病程度がやや高めであった。
(2) 9月の降水量は平年並～やや多めと予想されているため病勢が進展すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 8月の調査では県東部、中央部、西部で多め、県中西部でやや多めの発生であった。また、県東部、西部では発病程度の高いほ場も見られた。
(2) 9月の降水量は平年並～やや多めと予想されているため病勢が進展すると考えられる。

対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去

する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多（中西部）、平年並（中央部）、やや少（東部、西部）

根 拠

- (1) 8月の調査では県中西部でやや多めの発生であったが、密度の高いほ場はみられなかった。県東部、中央部、西部では少～やや少なめの発生であったが、県中央部では密度の高いほ場も見られた。
- (2) 本虫は高温期には密度が低下するが、気温の低下とともに発生が増加する傾向にある。9月の気温は平年並～やや低めと予想されているため、発生面積、密度とも増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメモシ類

予 想 発生量：多（県下全域）（トラップ調査データ）

根 拠

- (1) 8月の調査では、ほ場での発生は殆ど見られないが、フェロモントラップにおける8月の誘殺数（8月1～5半旬）は、県東部で平年の1.5倍、中央部で3.3倍、中西部で6.9倍、西部で3.0倍と先月同様、多発生が続いている。

対 策

- (1) 果樹カメモシ類はスギ、ヒノキ等の実を餌としているので、密度が高くても山林に餌が十分にあれば果樹園での被害はほとんど無いと考えられるが、山林で餌不足になると樹園地に飛来し、加害する可能性が高い。また、台風後には樹園地に飛来することもあるので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

こうち農業ネットサービス※

- ・携帯電話を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（Iモード）

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ヤフー）

- ①病害虫発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります